

火山防災トップシティ

～鹿児島市の桜島火山防災対策～



鹿児島市は、桜島と共生していくための取組を、市民と地域、事業者、研究機関・行政が一体となって向上させながら、火山防災のモデル都市として、国内外の火山地域の被害軽減のために世界貢献を行う火山防災トップシティを目指しています。

大規模噴火でも
「犠牲者ゼロ」を
目指す防災対策



桜島火山爆発総合防災訓練



降灰除去



次世代に
「つなぐ」
火山防災教育



桜島訪問体験学習

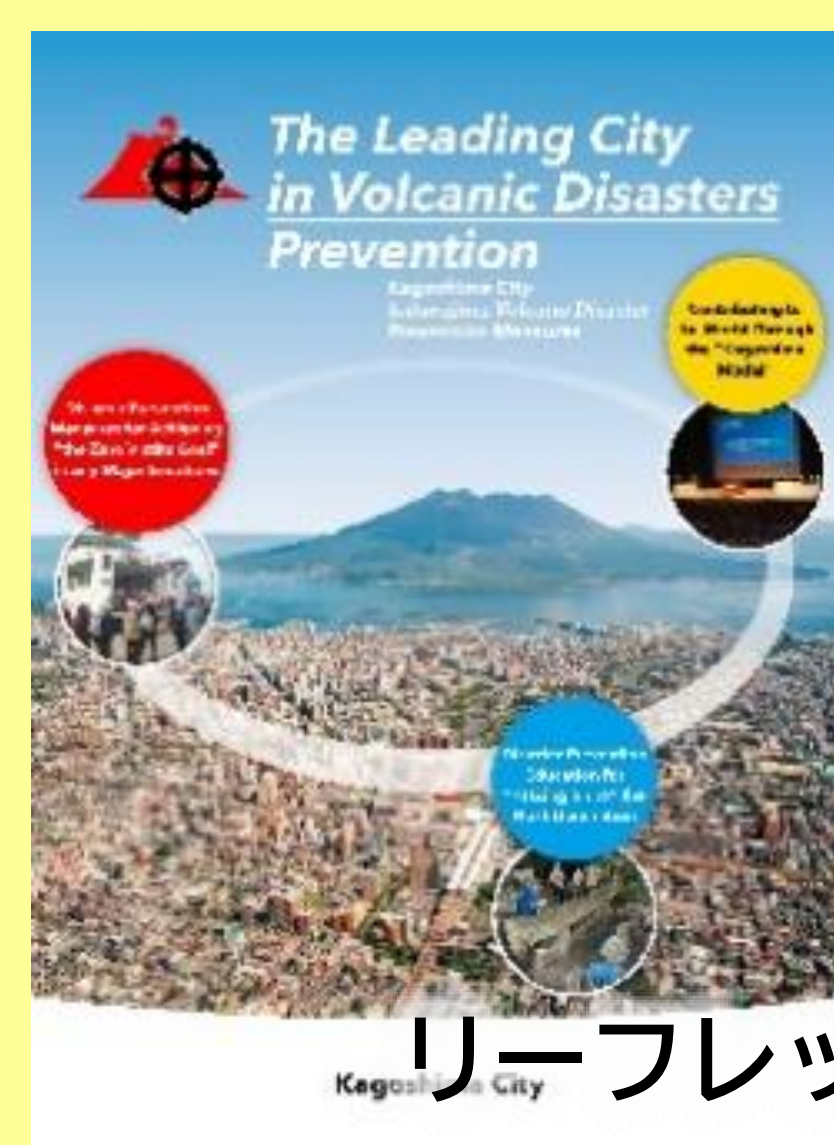


専門家派遣事業



火山防災スペシャリスト養成研修

「鹿児島モデル」
による
世界貢献

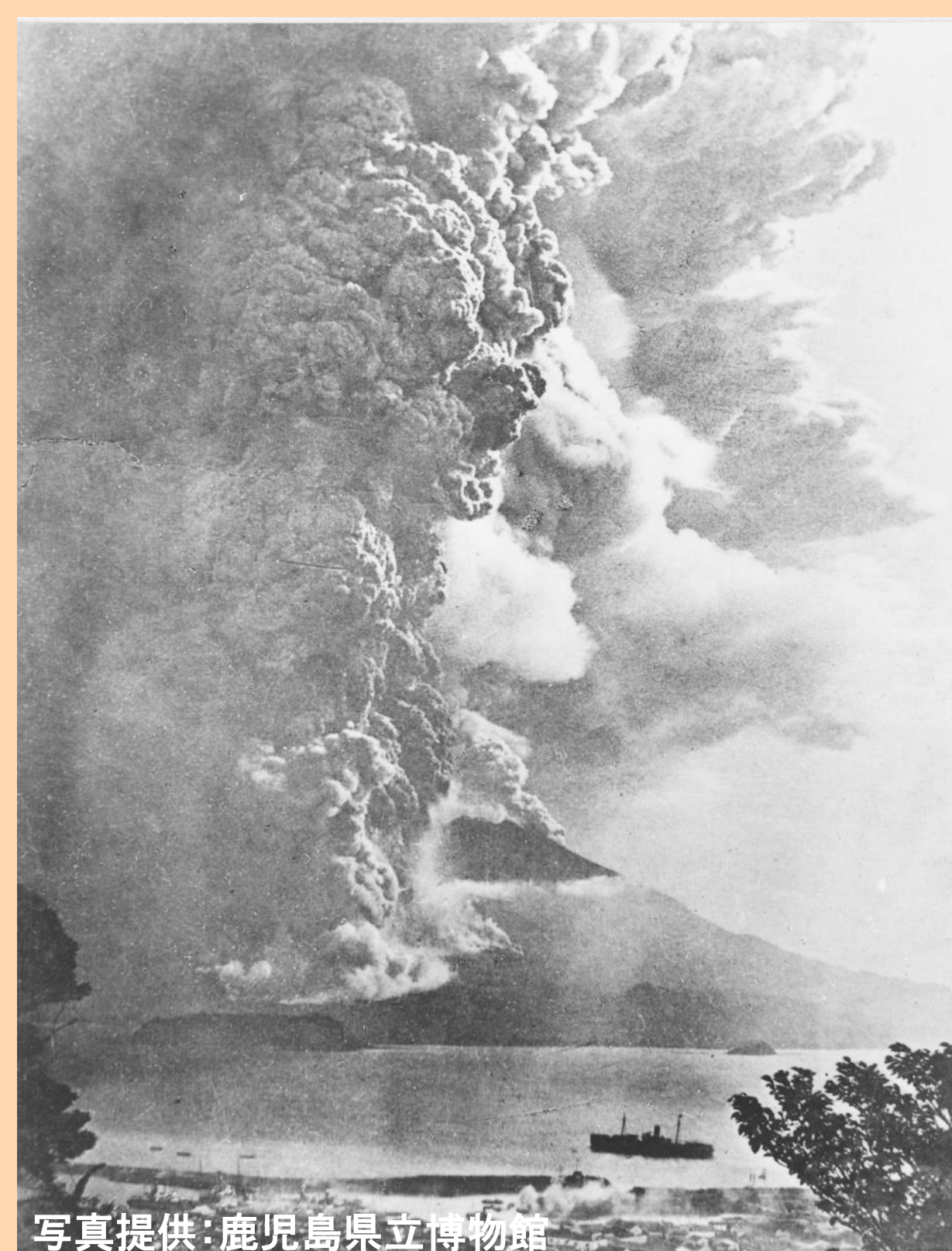


リーフレット・動画（日本語版・英語版）を活用した情報発信



火山防災強化市町村ネットワーク

過去から学ぶ ～大正噴火～



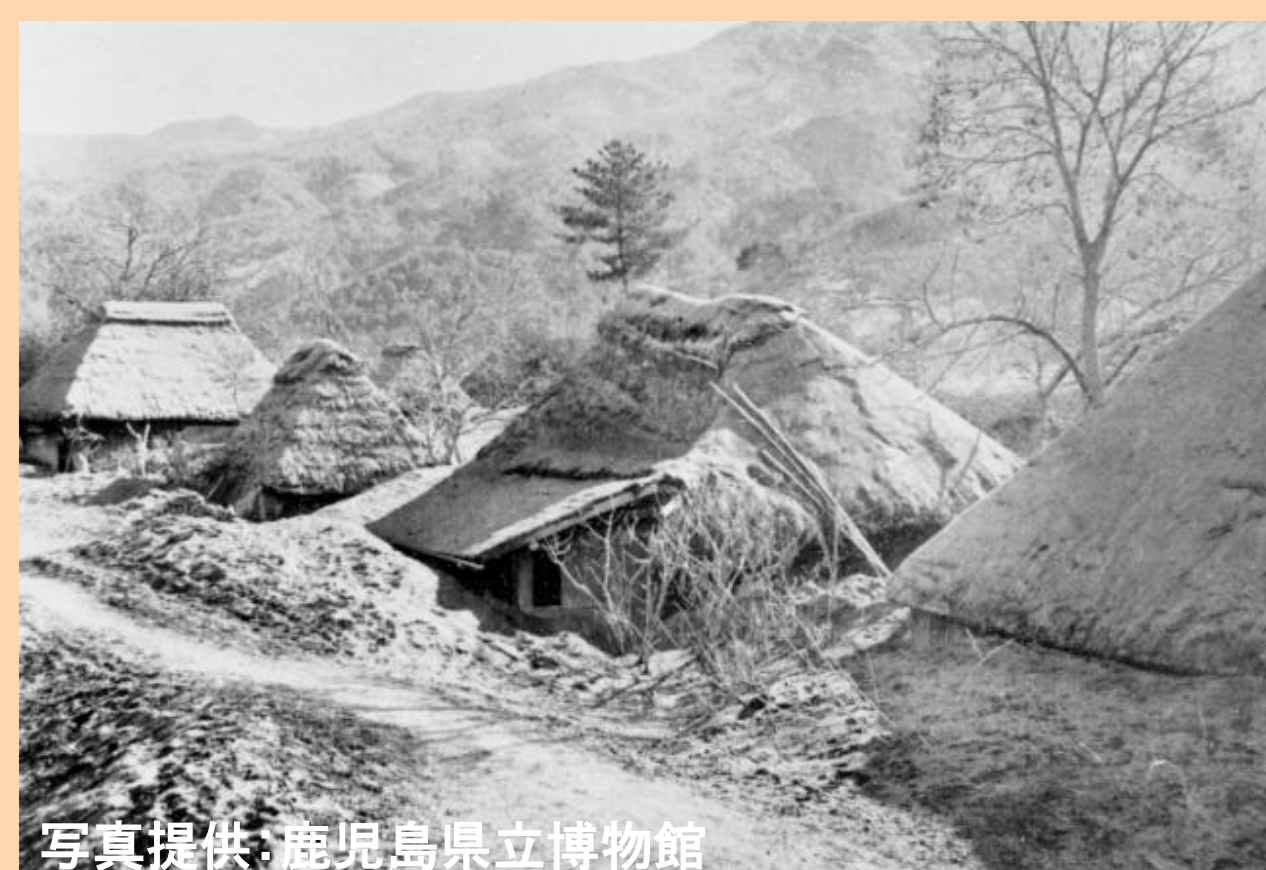
写真提供：鹿児島県立博物館

▲ 城山から見た噴煙の様子

◇大きな被害をもたらした大正噴火

大正3年（1914年）1月12日に起きた大正噴火では噴煙が約18,000メートルまで上がり、大隅半島には大量の軽石や火山灰が堆積し土石流や洪水も発生するなど深刻な被害が起きました。

薩摩半島側の鹿児島市などでも、噴火後に発生した大地震で多数の死傷者が出ました。（死者・行方不明者58名）



写真提供：鹿児島県立博物館

▲ 軽石火山灰に埋もれた家屋



写真提供：鹿児島県立博物館

▲ 地震による市街地側の被害

◇次の大規模噴火に備えて

始良カルデラ下のマグマ溜まりには、大正噴火当時と同等量のマグマが蓄積されていると言われています。これは、次の大規模噴火への備えが必要な時期に来ていることを示しています。

大正噴火級の大規模噴火が再び発生すると、鹿児島市では桜島島内はもちろん、東の風（市街地方向への風）の場合、市街地側においても最大1メートルの大量の軽石や火山灰が降り積もることが想定され、ライフラインの途絶や道路の通行不能、軽石や火山灰の除去に長期間かかるおそれがあります。

過去の災害を教訓に、次の大規模噴火への備えに繋げることが重要であり、鹿児島市では、様々な火山防災対策を進めています。

詳しくは、鹿児島市ホームページでご覧いただけます。

鹿児島市 桜島火山対策

検索

